

コーチングコミュニケーション研修を受講して

東京病院 薬剤部 植木 大介

2018年4月付で国立病院機構東京病院の主任薬剤師に昇任となりました。採用から8年間務めた水戸医療センターでは、がん薬物療法認定薬剤師の資格を取得し、院内のがん診療に力を入れて従事してまいりました。それらの経験を踏まえ、後輩薬剤師に対してもがん薬物療法に関する指導・助言を行ってきたところです。しかし、今後主任薬剤師として働く上では、特定の業務だけではなく薬剤部全体を広い視野で見ることが重要であり、その中で挙がった問題を解決していくためには、後輩の意見を広く吸い上げるコミュニケーションスキルが必須であると考えます。主任薬剤師に成り立ての私はその能力の一端を学ぶには最適であると考え、本研修を受講を希望致しました。

研修ではグループ内での自己紹介の後に、監督者の役割、問題発生時の対応、目標に向けた指示の出し方、報告の受け方、フィードバックの仕方、ストレスマネジメントといった濃い内容を学びました。また本研修は、単に座学研修として一方的に講義を受けるのではなく、模擬事例についてのグループ内での討論やロールプレイ形式となっており、最後まで能動的に参加することができるとなっています。模擬事例は薬剤管理指導等で患者対応した際のトラブルという日常業務に直結した内容で、グループ内での議論は非常に有意義な時間でした。繁忙で流されてしまいがちな事例についても、一つ一つ振り返る時間を作り検討していくような取り組みは今後実践していきたいと考えました。

講義を拝聴している中では、「報・連・相」がはっきりしていない会話、事実から入るのではなく曖昧な言葉で始まる会話が日常業務の中でも多いことに気付かされました。特に「報告」と「連絡」が一緒になりがちであり、必要なメンバー全員にしっかりとした情報伝達が行われていないケースは多々見受けられるため、「連絡」をした際には今一度振り返ることが大切であると考えます。悪い内容の報告を曖昧な言葉ではなく、きちんと事実から述べて貰うためには、日頃から「相談」しやすい雰囲気や職場環境を整えることが重要であると改めて感じた次第です。

国立病院機構の研修において、私と同年代の薬剤師が一同に集う機会は新人研修以来無かったため、情報共有の意味でも大変有意義な研修であると感じました。同年代で同時期に昇任となった主任薬剤師は同じような悩みを抱えていることも多く、他病院とも交流を深めることで問題解決の一助にもなり、そこがグループ病院の強みでもあると考えます。

本コーチングコミュニケーション研修を通して、円滑なコミュニケーションを進めるためには様々な知識や技術も必要となることを改めて実感しました。また、技術に関しては経験によって培われる部分も多いと考えますので、研修で学んだ知識を当院で働く際にも生かし、研鑽を積んでいきたいと思っております。最後に本研修は私と同じように主任薬剤師に成り立ての先生方には是非参加して頂きたい内容となっておりますので、来年度以降も多くの受講者が増えることを期待しております。